

# カナダ・レスブリッジ大学と北海学園大学 ダブルディグリー・プログラム協定締結

## まずは人文学部 2020年以降入学者が対象 将来は全学部へ拡大予定



上:レスブリッジ大学卒業式、中:レスブリッジ大学キャンパス、下:北海学園大学卒業式



レスブリッジ大学は、現在目覚ましい発展を遂げつつあるカナダ有数の州立大学です。本学とは、長年にわたる学生・教員の交流の歴史があり、受け入れ態勢は万全です。希望者は、北海学園大学で2年学び、取得単位や英語力のチェックを受けた後に、レスブリッジ大学で残りの2年間勉強することになります。日本で大学生活を経験し、しっかり準備した後でカナダに向かうので、無理なく留学することができます。

ただし、日本および現地での英語学習や、学年の開始時期の違い、帰国後の卒業後の就職活動など、将来に

### レスブリッジ大学に長期留学し 両方の大学を卒業できるようにしました！

業研究の提出など、2つの卒業証書を受け取るには最短でも5年はかかります。それでも、日本と北米の両方を拠点として国際的なキャリアを目指す人には、大変魅力的な選択だと思います。

多くのみなさんに、北海学園大学とレスブリッジ大学の両方を卒業する、この新しい制度にチャレンジしてもらいたいと思います(まずは人文学部に2020年度以降に入学者が対象となりますが、将来的には他の学部にも拡大していく予定です)。

### 「レスブリッジ大学の概要」

レスブリッジ大学はカナダ西部のアルバータ州レスブリッジ市にある州立総合大学で、文理、芸術、教育、経営、健康科学の5学部と大学院が設置されており、歯学、工学、ジャーナリズム、法学、薬学、ソーシャルワークおよび獣医学を専攻する学生は、他大学の専門学部へ進む。創立は1967年で、学生数は各コース合わせて約8700人。世界中から留学生を受け入れている。カナダ特有の自然・社会条件によく適応したユニークな校舎群は、建築家の間で世界的に知られている。



北海学園大学学報  
発行・編集 北海学園大学  
札幌市豊平区旭町4丁目  
1番40号 〒062-8605  
☎ 011(841)1161 FAX 011(824)3141  
https://www.hgu.jp/  
✉ gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp  
発行日(6月1日、9月1日、12月1日、3月15日)  
購読料 1部80円 年間320円  
制作・印刷 株式会社人乃社

安酸敏真学長卒業生・修了生へのはなむけの言葉	2面
退職教員からメッセージ	3面
北海学園学術研究助成事業報告(人文学部 仲丸英起准教授)	4面
工学部 藤原英樹教授 北大研究グループと新技術開発	5面
学園人脈記第11回 株式会社ケニスプロ 新田和代氏	6面
生命工学科 スパークリングロゼと赤ワイン2種類完成	7面
キャリア支援センター長より各学年の皆さんへ	8面

### 釧路町×北海学園大学 包括連携協定締結



釧路町・小松茂町長(右)と安酸学長

本学と釧路町は2019年12月18日、包括連携協定を締結した。

この協定により、釧路町の産業・経済・観光の振興、学生の教育活動、地域づくり・まちづくりの推進など

に協働して取り組んでいく。本学は経済学部教授を中心とした「地域政策研究ユニット」を組織し、釧路町での調査研究を行いながら、釧路町産業戦力会議の政策立案を側面からサポートしていく。また、学生のインターンシップ受け入れも行われる予定となっている。

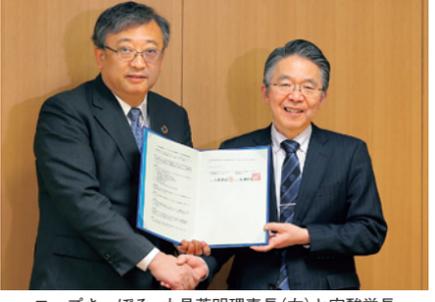
### 包括連携協定締結 記念フォーラム

釧路町との協定を記念し同日、B42番教室で包括連携協定締結記念フォーラムが開催された。



左から、経済学部・早辰正宏准教授、釧路町・小松茂町長、経済学部・濱田武士教授、開発研究所長・西村宣彦経済学部教授

### コープさっぽろ×北海学園大学 包括連携協定締結



コープさっぽろ・大見英明理事長(左)と安酸学長

コープさっぽろと北海学園大学の包括的連携協定の調印式は2019年12月19日、本学で行われ、コープさっぽろの大見英明理事長と本学・安酸敏真学長が署名した。協定締結によって今後、未来社会に向けた人材育成、そして持続可能な地域社会実現のために双方が協働して取り組んでいくことになる。

コープさっぽろは、2015年9月に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けての取り組みを強めている。SDGsは、地球環境を守りながら全て

### SDGs 取り組みへの第一歩

また、コープさっぽろの地域貢献活動、SDGsに関する活動を知らってもらうため、全学部学生を対象とした科目「社会科学特別講義(SDGsと協同組合)」が1学期に開講される予定である。



#### モンゴル文学 特集号 第3号

芝山豊・岡田和行・テレンゴト・アイトル 人文学部教授・満全 編著

2017年6月に本学人文学部と共催した国際シンポジウム「モンゴル文学の中の日本」での発表論文4本を中心に、内モンゴル、フリーヤット、日本からの新たな論文4本を扱った、4年ぶりの新刊。

日本モンゴル文学会

#### 刑事法の理論と実務 ①

佐伯仁志・高橋則夫・只木誠・松宮孝明編 瀬川行太 法学部准教授 他共著

特定のテーマにつき裁判官・検察官・弁護士各分野の実務家と研究者の議論を掲載。「論争刑法」「理論刑法の最先端」「海外の動向」など、柱として盛り込まれている。

定価(本体四、二〇〇円+税)

成文堂

#### 「アラブの春」以後のイスラーム主義運動

高岡豊・溝淵正季 編著 岩坂将充 法学部准教授 他共著

2011年頃から始まった中東の政治変動「アラブの春」。民衆によって次々に長期独裁政権が倒されたが、その後の国づくりで挫折した。中東におけるイスラーム主義のあり方、国際社会への影響を考察。

定価(本体三、五〇〇円+税)

ミネルヴァ書房

#### 二重国籍と日本 国籍問題研究会編 館田晶子 法学部教授 他共著

国際結婚が当たり前になった現代において国籍は身近なもの。ジャーナリスト、弁護士、当事者、研究者らが、日本の国籍法の問題意識、国際潮流についてわかりやすく解説する。

定価(本体八二〇円+税)

ちくま新書

#### ドイツ地方財政調整制度の歴史と特質

第2次世界大戦期・ワイマル期・ナチス期のドイツの市町村財政の研究をベースに、第2次世界大戦期・ワイマル期、ナチス期におけるドイツの地方財政調整制度を分析、その特質を明らかにし、日本の地方交付税制度への示唆を与える。

定価(本体四、四〇〇円+税)

同文館出版

#### オリエンテーション民法

松久三四彦(法務研究科教授・遠山純弘・林誠司)共著

社会人・大学の法学部で民法入門や法学入門の講義を受けようとしている人々のために、多くの漢字にフリガナをつけて、優しい言葉で解説。民法の全体像を効率的に理解できるテキスト。

定価(本体二、五〇〇円+税)

有斐閣

#### 経済的理性の狂気

グロバール経済の行方を  
デヴィッド・ハーヴェイ著 大屋定晴(経済学部教授)監訳

マルクスが特に関心を寄せたのは、資本主義は強い危機・危機の傾向があると思われたその理由だ。ハーヴェイがマルクスの「資本論」体系を総括し、現代グローバル資本主義を分析する。

定価(本体二、八〇〇円+税)

作品社

最初に意識をしたのは、5年前に学生の引率でカナダに滞在していたときだった。

当時はまだ「キャッシュレス決済」という言葉自体は使われていなかったが、現金を使う機会がとてつもなく少なかったのが印象に残っている。コンビニやファストフード店で1ドル2ドルといった少額の買い物をするときにも、住民の大半はクレジットカードやデビットカード



経営学部教授  
浦野 研

トピックス  
58

「キャッシュレス決済」という言葉自体は使われていなかったが、現金を使う機会がとてつもなく少なかったのが印象に残っている。コンビニやファストフード店で1ドル2ドルといった少額の買い物をするときにも、住民の大半はクレジットカードやデビットカード



「キャッシュレス決済」という言葉自体は使われていなかったが、現金を使う機会がとてつもなく少なかったのが印象に残っている。コンビニやファストフード店で1ドル2ドルといった少額の買い物をするときにも、住民の大半はクレジットカードやデビットカード

「キャッシュレス決済」という言葉自体は使われていなかったが、現金を使う機会がとてつもなく少なかったのが印象に残っている。コンビニやファストフード店で1ドル2ドルといった少額の買い物をするときにも、住民の大半はクレジットカードやデビットカード

「キャッシュレス決済」という言葉自体は使われていなかったが、現金を使う機会がとてつもなく少なかったのが印象に残っている。コンビニやファストフード店で1ドル2ドルといった少額の買い物をするときにも、住民の大半はクレジットカードやデビットカード

「キャッシュレス決済」という言葉自体は使われていなかったが、現金を使う機会がとてつもなく少なかったのが印象に残っている。コンビニやファストフード店で1ドル2ドルといった少額の買い物をするときにも、住民の大半はクレジットカードやデビットカード

皆さん、卒業ならびに大学院修了おめでとうございます。今般の新型コロナウイルス感染症の拡大ゆえに、3月20日に予定していた式典を中止することになり、痛恨の極みですが、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

本年令和2(2020)年は、本学にとって創設70年という記念すべき年にあたります。70年に及ぶ本学の基礎を築かれたのは、上原敏三郎初代学長です。上原先生は1954年3月7日、第一期卒業生たちに向けてこう語られました。

「標準」という言葉は、人を容れず、心広さを意味しますが、これはわたしの世代にとつて死語になってしまいました。大学卒業生が一般の水準以上の学識と教養を有するものであるとの認識も、ユニバーサル化の時代のわれわれには、アナクロニズム(時代錯誤)かもし

「標準」という言葉は、人を容れず、心広さを意味しますが、これはわたしの世代にとつて死語になってしまいました。大学卒業生が一般の水準以上の学識と教養を有するものであるとの認識も、ユニバーサル化の時代のわれわれには、アナクロニズム(時代錯誤)かもし

### 北大法科大学院と本学法学部が協定 法学部法曹養成プログラム開設

本学法学部は北海道法科大学院と法曹養成連携協定を締結し、法曹養成プログラムを開設することになりました。

このプログラムは、一貫的に接続する体系的な教育課程を設定することで、法曹志望者や法律の学修に関心を有する学生に対して学部段階からより効果的な教育を行うことを目的としています。

対象は2019年以降に入学した、法学部法律学科に所属する学生です(法学部は2年進級時に学科選択)。このプログラムで優秀な成績を収めた学生は、3年間で北海道法科大学院を早期卒業し、さらに北海道法科大学院への論文式試験は課されない入学試験の受験が可能となります。

今回文部科学省が他に先んじて法曹養成制度の導入を認定したのは、5法科大学院(北海道法科大学院・京都法科大学院・大阪市立大学法科大学院・上智大学法科大学院・関西大学法科大学院)と6法学部(北海道法科大学院・北海道法科大学院・京都法科大学院・大阪市立大学法科大学院・上智大学法科大学院・関西大学法科大学院)です。異なる大学間での協定としては北大と本学間の協定が全国初の認定となりました。

### 映画で学ぶ、スイスのことば

— “Heidi” (『ハイジ アルプスの物語』) の場合 —

工学部教授 熊坂 亮

まず一通り観終えたら、私の「補習」は始まります。

映画の冒頭。ハイジを連れる叔母デーテ。「アルムおんじ」のもとへの道中。

Heidi, komm! 「ハイジ いらっしやい」

おや、標準ドイツ語の komm [コム] のように聞こえたぞ。言語は全編、方言ではなく標準ドイツ語? でも後のシーンでは方言だ。序盤の舞台はスイス東部のマイエンフェルト。グラウビュンデン州の町。スイスの大部分の方言では、この komm の最初は k ではなく ch となる。標準ドイツ語にもある音で、口の奥でかすらすらするような音と言えはわかりやすい(が、カタカナでは表現し難い) 軟口蓋摩擦音。たとえばチューリヒ方言ならば Chumm! (choo「来る」の命令形) ところがマイエンフェルトの方言、現れているのは標準ドイツ語のような k。スイス北西部に位置するバーゼル周辺の地域に独特の現象とばかり思っていたのだが。

もう少し観ていくと、Grooskind 「孫」、Peter, i ka bliibe! 「ペーター どこにも行かないわ!」 (i 「私は」 ka 「してよい」 bliibe 「とどまる」) などの言葉が聞こえてくる。方言地図を見てみよう。ああ、マイエンフェルト近辺もその数少ない例だったのか。

この場面のすぐ後に。挨拶してきた一人の村人。「こんにちは」 「ウンディ? 「フンディ?」? そのように聞こえてきたが…。「こんにちは」の挨拶は、標準ドイツ語なら Guten Tag! [グーテン ターク]。方言ならばそれぞれの発音で。グラウビュンデンは Guete Tag! [グエツェ ターク] や Guata Tag! [グアッタ ターク]。ドイツ語圏スイスの東半分では Gruezi! [グリュエツィ] も使われる。ちなみに西では Grüesseech! [グリュエセツハ]。

方言地図を見てみると、ドイツ語固有のものではなさそう。そういえば終盤でペーターが、Grazcha! [グラーツチャ] と言っていた。ロマンス語の「ありがとう」だ。系統的にはイタリア語に近く、スイスの4つの「国語」の一つ。ロマンス語の中心地はグラウビュンデン州。州の公用語にもなっている。あ、ロマンス語の「こんにちは」、Bun di! [ブン ディ] じゃないか(気付くのが遅い…)。ロマンス語の挨拶はたしかに他にも出てきたな。「ようこそ」 Allegra! [アレグラ]、「さようなら」 Adia! [アディア]。

「ハイジからの課題」は他にもたくさんあったのですが、紙面の都合で今回は(?) ここまで。スイス(のドイツ語)映画、こんなふう楽しんでます。

### 星槎大学と北海学園大学が協定 小学校教員免許・特別支援学校教員免許 通信教育課程で取得可能に

本学と星槎大学(通信制大学)は昨年11月1日に、それぞれの伝統と教育理念を尊重しつつ互恵平等の立場で、星槎大学共生科学部通信制課程への推薦および受入れを行うことについて合意し、協定を締結しました。この協定により、本学の学生であれば、通常の科目等履修生として受講するよりも安価な費用で小学校・特別支援学校の教員免許を通信教育課程で受講することができるようになります。小学校・特別支援学校教員免許の取得に興味のある方は、学内説明会(7月実施予定)に参加してください。

「星槎大学の概要」2004年開学。共生科学部共生科学科(1学部1学科)、通信制のみの課程。本校は神奈川県箱根町。学生は全国に約6000人、平均年齢36歳。学費は履修登録した分だけ。在籍年限がない。



▼奨学金受給者  
経営学研究科修士課程2年 梁 素嘉(リョウ ソウカ)さん  
文学研究科修士課程2年 孔 継金(コウ ケイキン)さん  
人文学部日本文化学科2年 林 浩陽(リン コウヨウ)さん  
工学部生命工学科3年 郭 宗明(クワン ショウメイ)さん

これにより在籍する留学生から4名を厳正に選考し、令和元年12月16日に学長(教育振興会会長)より1人当たり10万円の奨学金(奨学金C)を支給しました。

2020年度 一般入試・センター試験利用入試(2期を除く)入試状況 (人)

部	学部	学科	志願者数		
			一般入試	センター利用入試	合格者数
1部	経済	経 済	1,429	336	532
		地域経済	567	298	265
	経営	経 営	441	276	236
		経営情報	855	298	387
	法	法 律	246	181	160
		法 政	277	260	191
	人文	日本文化	113	116	173
		英米文化	158	150	188
	工	建 築	182	208	253
		電子情報工	114	191	220
1部合計			4,382	2,314	2,605
2部	経済	経 済	235	-	211
		地域経済	188	-	92
	経営	経 営	218	-	334
		経営情報	65	47	38
	法	法 律	36	36	53
		法 政	742	83	728
2部合計			5,124	2,397	3,333
1・2部合計			9,506	4,711	5,938
総計			7,521	3,333	3,333

※経済学部・法学部は学部単位での募集です。  
※2部合格者数は第2志望合格者を含みます。

令和2年度 入試状況

1月18日、19日に行われた大学入試センター試験利用入試1期、2月9日から12日までの4日間行われた一般入試に加え、併設校推薦入試(北海道高校・北海学園札幌高校)の合格発表が、2月23日(日)の午前10時から行われました。

今回から合格発表は校内で行うよう変更したため、昨年までと違う雰囲気のものとなりました。一般入試と大学入試センター試験利用入試1期の志願、合格状況は表のとおりです。

一般入試の志願者数は、昨年と比較して1部(昼間部)全体では560名増(約115%)、2部(夜間部)全体では258名増(約153%)。大学入試センター試験利用入試1期は1部(昼間部)が51名減(約98%)、2部(夜間部)が15名増(約122%)となりました。

昨年度入試からみられる、定員厳格化にともない合格者数を抑制する大学が多いことによる受験生の「安全志向」が続いていることが、大学入試センター試験が来年度から共通テストに変わることで、受験対策が立てやすい現在のセンター試験のうちに大学入学を決めたいと考える受験生が多かったため志願者が増加したのと思われる

志願者増加

115%、2部(夜間部)全体では258名増(約153%)。大学入試センター試験利用入試1期は1部(昼間部)が51名減(約98%)、2部(夜間部)が15名増(約122%)となりました。

昨年度入試からみられる、定員厳格化にともない合格者数を抑制する大学が多いことによる受験生の「安全志向」が続いていることが、大学入試センター試験が来年度から共通テストに変わることで、受験対策が立てやすい現在のセンター試験のうちに大学入学を決めたいと考える受験生が多かったため志願者が増加したのと思われる





久井貴世客員研究員

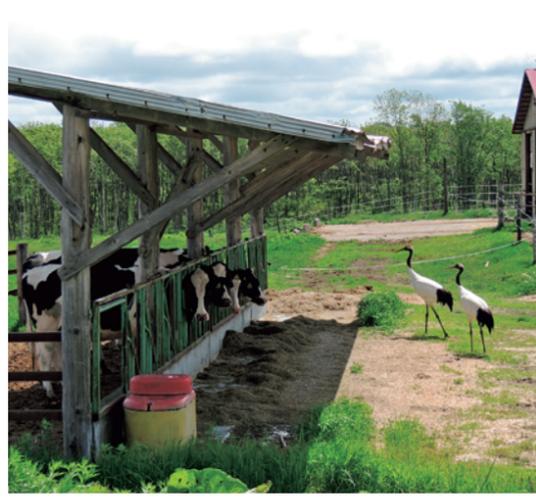
**客員研究員**  
**久井 貴世**

私は、江戸時代におけるツルの生息実態と人との関わりを解明する研究に取り組んでいます。

日本で記録があるツルは7種で、北海道には赤い頭が特徴的なタンチョウが生息しています。ツルは渡り鳥の印象が強く、冬の姿が有名なタンチョウもまた、春にはシベリアへ帰ると誤解されがちですが、北海道のタンチョウは一年中北海道内に生息しています。

### FOCUS 歴史資料からツルを探る

そんなタンチョウにも渡りをしてきた時代がありました。今から数百年前の江戸時代に遡ると、当時蝦夷地と呼ばれていた北海道の各地、さらには東北や関東、中国、四国、九州などでもタンチョウが生息していたことを示す記録が確認できます。日本各地に生息したタンチョウは、おそらく渡りをしていたと考えられます。



牛の顔を狙うタンチョウ。驚いた牛が怪我をしたり、タンチョウに攻撃されるなどの被害もある(鶴居村にて撮影)

江戸時代の文献からは、ツルと人との多様な関わりも見えてきます。例えば、当時ツルは最上級のおもてなし食材とされ、「鶴の汁」などの料理が貴人に供されていました。当時の文献では、食材として使われたのは主に

にナベツルやマナツルで、タンチョウは肉が硬く美味しくないため、食することには少ないと書かれています。ツルの種によって味が異なるのかどうか、現在ではそれを確かめる術はありませんが、興味の尽きない問題です。

北海道各地に生息していたタンチョウは、生息環境の悪化や狩猟の影響により明治末頃には絶滅したといわれるほどに激減しました。保護の取組みにより数が回復し、現在では北海道を代表する鳥として主に道東地方でその姿を見ることができ、実は近年、札幌からほど近い長沼町やむかわ町などでもタンチョウが確認されています。2018年には札幌市内でも目撃されました。興味深いことに、近年タンチョウが飛来している地域は過去に記録がある地域と一致します。数百年の時を経て、タンチョウがかつての生息地に帰ってきているのかもしれない。

一方でタンチョウの増加と分布の広がりは、人との軋轢の拡大にも繋がります。ツルと人の軋轢は江戸時代の文献にも記録がある根深い問題ですが、当時の人々がどのようにツルと向き合っていたのか、きつと現代のツルと人との関わりのある方にも通じる手があるのではないかと考えます。

これからも歴史資料を通じて、ツルと人とのより良い関わりを探りたいと考えています。

### 北海学園学術研究助成事業報告⑫

## 近世ウェールズにおける下院議員の選出様態とその機能



人文学部准教授 仲丸 英起

1978年神奈川県に生まれる。慶應義塾大学文学部卒業。同大学院文学研究科修士課程修了。同博士後期課程修了。博士(史学)。慶應義塾大学。金沢学院大学文学部専任講師を経て、2016年度より北海学園大学文学部准教授。近世のイングランド政治史を中心に研究を行っている。主な研究業績は、『名譽としての議席——近世イングランドの議院と統治構造(慶應義塾大学出版会、2011年)、『イギリス近世・近代史と議院制統治』(共著、吉田書店、2015年)など。

一般に、議会が国政を主導する議会制統治は、中央政府と各地域社会との関係を安定に保つていく上で不可欠であると考えられている。しかし、議会の存在により統治上の困難が無条件に解消されるわけではなく、むしろ両者の対立を主張するホイクグ史観も、両者の実相を解明するための有力な方法の一つは、議会制度発祥の国であるイギリスにおいて、その歴史に即してこの統治モデルの限界を示すことである。

### 複合国家における議会の機能とは

近世イギリス議院史は、いわゆる「ピューリタン革命」を念頭に置き、国王と議会の関係を中心とした議論が展開されてきた。その点において、両者の対立を主張するホイクグ史観も、両者の実相を解明するための有力な方法の一つは、議会制度発祥の国であるイギリスにおいて、その歴史に即してこの統治モデルの限界を示すことである。

これに対して私は、16世紀後半から17世紀前半のイングランド下院議員について、主として伝記的情報を統計的に処理する手法により分析してきました。その結果、16世紀後半における議会下院は、地域利害を代表する点ではなく、貴族などのパトロンが地方統治を担うジェントリ階層に与えるパトロン(恩恵)の有力な供給源であったという点で、重要な役割を果たしていたという結論を得ました。一方で17世紀に入ると、徐々に中央と地方の接点としての議会の役割が増加していった状況も明らかになりました。

とはいえ、これまでの議論はイングランド中心に展開される場合がほとんどで、現在の連合王国を構成する



アベリストウィスにあるウェールズ国立図書館

ウェールズ、スコットランド、アイルランドといった地域が視野に入れられることはまれでした。しかし、16-18世紀はブリテン諸島において多地域にわたる「複合国家」が形成されていた時代です。現代社会におけるグローバル化の進展によって、国民国家とは異なる統治様式としての複合国家体制は、近年特に注目を集めるようになってきた。

そこで本研究課題においては、1536年にイングランドに合同されたウェールズに着目し、複合国家の形成過程における議会の有効性を探究しました。その結果、16世紀中のウェールズ選挙区で選出されるのはほとんどが地元出身者であるものの、彼らは議会ではほとんど活動していないこと、17世紀に入るとイングランド出身者がウェールズ選挙区に「侵入」すると同時に、ウェールズ関連の案件が議会で審議される機会が増えいったことが分かってきました。この成果を足がかりとして、今後は複合国家ブリテンの統治システム全体において議会が果たしていた役割を解明してゆきたいと思えます。

### 第39回 開発特別講座

開発研究所主催の第39回開発特別講座が11月7日に豊頃町で、12月6日に芽室町で開催された。それぞれの地域課題についての講演に住民たちは熱心に聞き入っていた。

**「地域包括ケアとまちづくり」**  
—高齢者介護をどのようにすすめていくのか—  
法学部教授 横山 純一 (財政学・地方財政論)

十勝の豊頃町で開催された開発特別講座では、「地域包括ケアとまちづくり—高齢者介護をどのようにすすめていくのか—」と題して講演した。

2025年に団塊の世代が全員75歳以上になることもあって後期高齢者数が大幅に増加し、これに伴って医療費と介護費が大幅に上昇し、介護保険料も高くなる、いわゆる「2025年問題」に言及したうえで、地域包括ケアシステムについて講義した。

地域包括ケアは、高齢者

が重度な要介護状態になっても、できる限り自宅や地域で過ごすことができるように、住まい、医療、介護、予防、生活支援などのサービスが一体的に提供されるシステムである。この実現のためには、多様なサービスの質・量両面の充実、専門職だけでなく町内会やNPOなどを含めたサービス提供主体の連携、多様なサービス提供主体をまとめながらサービスのコーディネートや相談機能を担う組織の重要性を述べた。

講演には、役場職員、福祉関係者、ボランティア活動を行う高齢者の方たちなど約50名が参加した。質問も多数出て、充実した講座になった。

### 第2回 (12月6日) 「今求められる学校と地域の連携」

十勝管内では、学校と地域の連携・協働による「地域学校協働活動」の組織体制の構築は始まったばかりです。今回の講演は、内容、カリキュラムマネジメント、働き方改革について確認し、その後のワークショップでは、グループに分かれて、学校と地域が連

係する、これまでの教育関係の施策を振り返りました。次に、現在の学校教育に求められている新指導要領の内容、カリキュラムマネジメント、働き方改革について確認し、その後のワークショップでは、グループに分かれて、学校と地域が連

携する際の課題等について考えました。

学校教育には、保護者や地域の方々との協力を、地域に根差した学校づくりを行うことが求められています。現在の教育現場では、業務の多忙さゆえに、地域の教育資源を探し、連携のた

### 開発研究所 2019年度研究会 北海道の「遺産」とこれからの北海道開発



旧「石炭の歴史村」(夕張市) 住友炭田炭鉱立坑(三笠市) 住友赤平炭鉱立坑(赤平市)

開発研究所は2018年度から北海道の「遺産」に焦点をあてた総合研究に取り組んでいる。その一環として、昨年5月の「炭鉄港」日本遺産登録の立役者である吉岡宏高氏(NPO法人炭鉄の記憶推進事業団理事長、札幌国際大学長、札幌国際大学教授)をお招きし、11月27日、D

**北の産業革命「炭鉄港」を觀よ!**  
人口減少や少子高齢化など日本が直面する課題に対し、「炭鉄港」の歴史の中にヒントがある。日本のこれからの30年を、われわれは30年前に体験した。様々な失敗をしてきた。炭鉄港にきて、それぞれの地域や人生を炭鉄港エリアに投影してもらいたい。それがわれわれのミッションだ」と話した。

41教室で、これまでの取り組みと今後の課題について講演していただいた。空知の石炭を基軸に、室岡氏は、幼少期の思い出話を織り交ぜながら、明治から大正にかけての炭鉄港の発展、戦後復興での活躍とその後の衰退を説明。さらに、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の出発点である薩摩藩を源流とする炭鉄港のユニークな歴史にも

取り組みが「炭鉄港」だ。三笠市の炭鉄港で育った吉岡氏は、幼少期の思い出話を織り交ぜながら、明治から大正にかけての炭鉄港の発展、戦後復興での活躍とその後の衰退を説明。さらに、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の出発点である薩摩藩を源流とする炭鉄港のユニークな歴史にも

直面する課題に対し、「炭鉄港」の歴史の中にヒントがある。日本のこれからの30年を、われわれは30年前に体験した。様々な失敗をしてきた。炭鉄港にきて、それぞれの地域や人生を炭鉄港エリアに投影してもらいたい。それがわれわれのミッションだ」と話した。

高齡化など日本が直面する課題に対し、「炭鉄港」の歴史の中にヒントがある。日本のこれからの30年を、われわれは30年前に体験した。様々な失敗をしてきた。炭鉄港にきて、それぞれの地域や人生を炭鉄港エリアに投影してもらいたい。それがわれわれのミッションだ」と話した。



# 学園人脈記

第11回  
株式会社ケンズプロ 代表取締役 **新田 和代** 氏  
社会保険労務士、行政書士、経営・人事コンサルタント  
[法学部法律学科 平成14年度卒・37期生]



試験に合格。「独立もいいかなど少し考えた」が、まずは社会を知ろうと社会保険労務士事務所と民間企業で働いた。そこで自身がセクハラ、パワハラ、ブラック労働などを体験すること。「若上司は、部下のやる気を削ぐようなことをするのだから。これでは仕事の質も上がらず、業績も悪化する。人を大切にしないと会社は育たない」と実感した。これを機に、労働の専門家になろうと決意し、働きながら勉強して2006年に社会保険労務士の資格を取得。翌年、事務所を開設し、2017年にコンサルティング業務や講演、研修などを専門に受ける株式会社ケンズプロを設立した。

## 職場の「人」に関する課題解決請負人

### 課題解決請負人

人材確保・人材育成、働き方改革、ハラスメント防止対策など、いま、企業が抱える課題はつきない。そのような「人」に関する課題を解決方向に導くため、全道の自治体や企業を飛び回っているのが、前号登場の濱内勇一氏から紹介していただいた新田和代さんだ。

◆ ◆ ◆  
「いま企業は人手不足の中で働き方改革を進め労働時間を短くしなければならず、余裕がないなかでつい言葉じりがきつくなりパワハラとなってしまうという悪循環になりがちです。長時間労働とハラスメントと人材不足は関連しており、それらを総合的にコンサルティングするというのが私の仕事です」。

◆ ◆ ◆  
「会社は「人」で成り立っています。100人いたら100通りの正義と価値観がある。でも、人の温かさが社内であれば必ず報われる」と新田さんは確信している。

◆ ◆ ◆  
「改進黨で」すぐには結果は出ませんが、少しずつ空気が良くなって、働く人の心に余裕ができたたり幸せに貢献できることがこの仕事のやりがいです」

◆ ◆ ◆  
「これから社会に巣立っていく学生たちには、「失敗を恐れず、チャレンジすること。失敗したら上司に助けを求めよう。そして、自分のできる範囲で、自分の目でみて体験してほしいですね」。

◆ ◆ ◆  
「プロフェッショナル1000年札幌開成高校卒業、同年北海学園大学法学部入学。2002年行政書士資格取得。2003年北海学園大学法学部法律学科卒業。2006年民間企業勤務。2006年社会保険労務士資格取得。2007年社会保険労務士・行政書士事務所開設。2017年株式会社ケンズプロ設立。北海道行政書士会、全国社会保険労務士会連合会、北海道社会保険労務士会、札幌市ワーカーズ・ライフ、ランスplusアドバイザー、日本行政書士会連合会常務理事。



労働セミナーで新田さんの講演に受講者は熱心に耳を傾ける



新田さんは「人材不足

の活性化を提案している。さらに、何かをやってもたら「ありがとう」、やり過ぎや間違ったことには素直に謝るなど、人として基本的な挨拶の大切さを強調する。

◆ ◆ ◆  
「会社は「人」で成り立っています。100人いたら100通りの正義と価値観がある。でも、人の温かさが社内であれば必ず報われる」と新田さんは確信している。

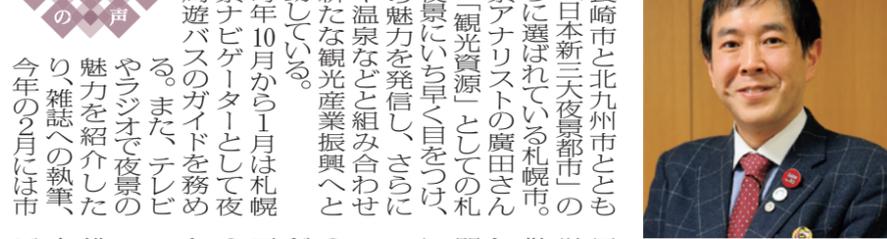
◆ ◆ ◆  
「改進黨で」すぐには結果は出ませんが、少しずつ空気が良くなって、働く人の心に余裕ができたたり幸せに貢献できることがこの仕事のやりがいです」

◆ ◆ ◆  
「これから社会に巣立っていく学生たちには、「失敗を恐れず、チャレンジすること。失敗したら上司に助けを求めよう。そして、自分のできる範囲で、自分の目でみて体験してほしいですね」。

◆ ◆ ◆  
「プロフェッショナル1000年札幌開成高校卒業、同年北海学園大学法学部入学。2002年行政書士資格取得。2003年北海学園大学法学部法律学科卒業。2006年民間企業勤務。2006年社会保険労務士資格取得。2007年社会保険労務士・行政書士事務所開設。2017年株式会社ケンズプロ設立。北海道行政書士会、全国社会保険労務士会連合会、北海道社会保険労務士会、札幌市ワーカーズ・ライフ、ランスplusアドバイザー、日本行政書士会連合会常務理事。



札幌藻岩山山頂 札幌大通「さっぽろホワイトイルミネーション」



長崎市と北九州市とともに「日本新三大夜景都市」の一つに選ばれている札幌市。夜景アナリストの廣田さん。彼は「観光資源」としての札幌夜景にいち早く目をつけ、その魅力を発信し、さらに食や温泉などと組み合わせ、新たな観光産業振興へと活動している。

◆ ◆ ◆  
「札幌は夜景都市としての総合力が特徴です。藻岩山、大倉山、旭山記念公園、テレビ塔、JRタワー、ホワイ」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「外崎さんのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」



Screen Sapporoで最優秀賞を受賞した作品「SAPPORO UP-DOWN」

## 札幌映像コンテスト SCREEN SAPPORO 2019

熊谷貫太 (経営学部4年) 外崎大裕 (工学部1年)

### 最優秀賞受賞

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「外崎さんのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

## 夜景を観光資源として魅力発信

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」



サービス・カウンターで業務の説明を受ける中学生たち

## 北野台中学生 本学図書館で職業体験

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」

◆ ◆ ◆  
「熊谷さんへのコメント」



前列左から、崔 智慧(チェ ジェ)さん、崔 賢彬(チェ ヒョンビン)さん、安酸学長、金 基龍(キム キリョン)さん、丁 恩夕(ジョン ウンク)さん

# 生命工学科 小山芳一 研究室 新沼 協 研究室 「学園オリジナルワイン」で地域貢献めざす

## 2019年度 スパークリングロゼと赤ワイン 2種類完成

工学部生命工学科の小山芳一研究室と新沼協研究室は、2017年度より八剣山ワイナリー（札幌市南区・亀和田俊一社長）と提携し、ワイン造りに関する研究を行っている。昨年度の赤ワインに続き、今年度、スパークリングロゼと赤ワインの2種類のワインが完成した。



工学部生命工学科4年 高林 和紀 新沼協研究室



スパークリングロゼ(右)と赤ワイン。どちらもクオリティの高いワインに仕上がった

卒業研究として、先輩たちの実績を引き継ぎ、昨年春からワイン造りに取り組んできた生命工学科4年の古川彰人さん(小山研究室)と高林和紀さん(新沼研究室)に、「学園オリジナルワイン」完成までの道のりと感想を聞いた。

学園オリジナルワイン HP <https://hguwine.wixsite.com/mysite-1>



工学部生命工学科4年 古川 彰人 小山芳一研究室

今年度の赤ワインの最大の特徴は、われわれ新沼研究室が開発したワイン醸造用酵母が使用されていることです。ワインの出来は、その年に収穫されたぶどうの出来と、発酵を行う酵母の特性・働きで決まります。近年は、海外産などの市販酵母を使うことが多く、安定して発酵が行われる一方で、その土地の個性を表現するにはもう一つ物足りないワインが多くなったと

小山研究室がワイン造りに関する研究を始めたきっかけは、「生命工学科の持つ知識と技術で何か地域貢献できないか」との思いからです。昨年度、はじめて赤ワインの試験醸造に成功し、今年度は、製品企画や工程管理、成分分析に加え、ワイナリー試験農園で全工程を実習しました。6月上旬にぶどうの剪定、9月に収穫。収穫したぶどうを破砕し、酵母とスター

### オリジナル酵母「HGU-140」を選抜

言われています。そこで新沼研究室では2017年度から、ワインにとって重要な「テロワール(土地の個性)」を活かせる酵母を全道各地で探し出しました。3年前、先輩3人(出口航大・高島佑太・佐藤大樹)が、道内各地の植物や土壌400サンプルを採取し酵母を単離分子生物学的手法を用いて酵母を同定し、アルコール耐性や糖耐性などから、7株に絞り込みました。



八剣山ワイナリーで破砕したぶどうに酵母「HGU-140」を入れる

今年度は、その7株で試験的にワインを造り、官能試験で評価、さらに選抜して仕込み試験と官能試験を重ね、ワイン醸造好適酵母「HGU-140」の取得に成功しました。この酵母は140番目のサンプルで、八剣山ワイナリーのブドウ畑から採取したものです。こうして、「ワイナリー」葡萄「酵母」すべて「道産子」の赤ワインが本学から誕生しました。

卒業研究を終えて 酵母を培養していると、だんだんと愛着が湧いてきます。そんな酵母で造ったワインの味は「世界一」です(笑)。大学によるワイン酵母の研究がここまで早く実用化に結びついた例はほとんどないと思うので、貴重な経験となりました。将来は高校の教員(理科)をめざして、生徒への指導などに役立てていきたいと思ひます。

### ワイン造りすべての工程を現場で実習



6月上旬に剪定、秋に収穫



発酵



圧搾



熟成

ターを入れて発酵を始めます。発酵期間は約2〜3週間。その間、発酵効率を上げるために、浮き上がった果皮や種子を下に押し戻すパンチングを毎日行います。発酵が終わると、果皮と果汁を完全に分離する圧搾を行い、貯蔵。酸が完全に下がったらフィルターをかけ、スパークリングロゼには炭酸を注入。そして瓶詰め、ラベル貼り。こうして昨年12月にスパークリングロゼ、今年2月に赤ワインが完成しました。

卒業研究を終えて 一つ一つの作業に全力で取り組み、一からものをつくることの大変さを改めて実感しました。自分たちで造ったワインは「わが子」のように、味も最高。販売店でも売れはじめ、リピーターもいらっしやるという嬉しいです。産・学が連携して技術開発や地域貢献をめざすこのようなプロジェクトに参加し、貴重な体験となりました。



卒業研究発表会にて

### ワインラベルに「シマフクロウ」

ワインラベルは学生と教員の共同制作。「シマフクロウ」を中心的なモチーフにし、北海道の自然の恵みを表す「植物」と「果汁」、地域との連携を意味する「リボン」、北海学園大学のコミュニケーションマークを周囲に配置した。



シマフクロウを研究している生命工学科・早矢仕有子教授の解説



フクロウの仲間には世界中に約250種が分布しています。知的な印象も強く、古代ギリシア神話で知性、芸術、戦いを司る女神アテナの従者は、学名に「アテナ」を冠した小さなフクロウの一種です。

北海道は日本で唯一のシマフクロウ生息地。翼を広げると180cmに達する世界最大級のこのフクロウは、地球上の総個体数が2,500羽を越えず、北海道にはわずか160羽の絶滅危惧種です。アイヌの人々は、村を守る最高神「コタンコロカムイ」としてシマフクロウに敬意を払ってきました。それは、シマフクロウの存在自体が、自然の恵み豊かな川と森の象徴だったからでしょう。コタンコロカムイがいつまでも北海道と共に在りますように。

- HGUワイン販売店
▶八剣山ワイナリー
▶ワイショップフジキ
▶マルヨ吉田商店
▶ニチロ畜産株式会社
[ugwine スパークリングロゼ]が飲めるお店
▶居酒屋 一休



右: オリジナル酵母選抜を担当した高林さんから安酸学長へ赤ワインを贈呈
上: 魚住純工学部長の乾杯で試飲が始まった

### ワイン完成報告会

オリジナル酵母を使った赤ワイン完成報告会が1月31日、本学国際会議場南側ロビーで開催された。八剣山ワイナリーの亀和田俊一社長をはじめ、ワイン研究に携わった学生、教員ほか関係者など約40人が出席。酵母選抜作業を担当した高林和紀さんから安酸敏真学長にワインが贈呈され、工学部・魚住純工学部長の乾杯で試飲が始まった。

### 八剣山ワイナリー・亀和田社長のコメント

オリジナル酵母の選抜をたった3年でやってしまったのはすごいことだ。去年は初めてワイン造りで試験的だったが、今年度は仕掛けて結果が出た。ワイン造りは、誰でもできるけれども、誰でもできることではないという微妙な世界。一通りできたとしてもそれに満足せず、もっと深く研究してほしい。学生たちにはこの経験を自身の人生に生かしてほしい。

### 生命工学科・新沼協准教授のコメント

クオリティの高いワインができて嬉しい。HGU-1401を選抜できたのは、高林くんが丁寧な信用できる仕事をしてくれたことが大きい。彼が選抜方法も確立してくれたので、来年度以降は白ワインにも挑戦が可能となった。また、酵母づくりの作業をたてる時には、古川くんのワイナリーでの作業状況報告が大変役立った。

### 生命工学科・小山芳一教授のコメント

今年度は、市販品とは別格のワインができたと思う。もともと私の研究室からはじめた研究だったが、子どもが成長していくように、どんどん大きな成果をあげていくことを嬉しく思う。古川くんは大変なことたくさんあったと思うが、完成したワインを手にし、喜びもひとしおだろう。いい経験になったと思う。



創団30周年記念定期演奏会

### 吹奏楽団 創団30周年

吹奏楽団 創団30周年 井越 隆凱 吹奏楽団 創団30周年を迎えるにあたり、吹奏楽コンクールに最も大きな貢献で参加できる楽団へと成長し、数多くの演奏の機会をいただけた。さらに平成29年には、当団としては初となる、全日本吹奏楽コンクール大学A編成の部で北海道代表として出場しました。また、昨年の定期演奏会では創団30周年を記念し、歴代のOB・OGの方を交え、演奏者が総勢100名を越えるステージとなりました。

当団は30周年を迎え、より一層良い演奏をお届けします。大学関係者の皆さま、地域の皆さま、これからもよろしくお祈りいたします。また、先ではあります、今年も12月6日に札幌市教育文化会館にて定期演奏会を開催する予定です。たくさんのご来場お待ちしております。

### 吹奏楽団 創団30周年

私たちが北海学園大学吹奏楽団は昨年創団30周年を迎えることができました。30周年を迎えることができましたのは創団当初から指揮者として楽団を指導して下さった河井さんと顧問として共に活動して下さった佐藤先生、OB・OGの皆様の協力、そして定期演奏会や地域の演奏会に足を運んで下さったお客様のおかげです。深く感謝申し上げます。北海学園大学吹奏楽団



電子情報工学科生 卒業研究発表 (2月6日)



社会環境工学科生「構造系」 卒業研究発表 (2月20日)



建築学科生 論文発表 (2月20日)



建築学科生 卒業設計発表 (2月14日)

### 工学部 卒業研究発表会

工学部各学科の卒業研究発表会が2月に山鼻キャンパスで行われた。

緊張しながらも充実した面もちで、4年間の集大成となる研究内容を説明。鋭い質問にも対応し、大学生の最後を締めくくった。

